

## 希少水生生物保存対策推進事業

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 誌名    | 栃木県水産試験場研究報告      |
| ISSN  | 13408585          |
| 著者    | 尾田, 紀夫<br>阿久津, 正浩 |
| 巻/号   | 46号               |
| 掲載ページ | p. 17-17          |
| 発行年月  | 2003年3月           |

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



# 希少水生生物保存対策推進事業

## —滝岡ミヤコタナゴ保護地における 放流されたミヤコタナゴの生残・成長・繁殖状況— (水産庁委託事業 平成10年度～平成13年度)

尾田 紀夫・阿久津正浩

### 目 的

栃木県大田原市親園の滝岡ミヤコタナゴ保護地は県が管理するミヤコタナゴの生息地である。この保護地では1994年（平成6年）から1995年（平成7年）にかけてミヤコタナゴとその産卵床であるヨコハマシジラガイの生息環境改善のため、水路の改修工事が行われた。工事に先立ってミヤコタナゴは採捕し、水産試験場に収容したが、ヨコハマシジラガイは水路のほとんどが干上がったため、水の残った下流の一部を残して死滅したと考えられている。工事が終了して水路の環境も安定したことから平成12年3月、平成13年3月にミヤコタナゴを放流した。そこで、改修後の水路に放流したミヤコタナゴの生残・成長・繁殖状況を把握するため調査を実施した。

### 材料及び方法

**調査期間** 平成13年10月31日に行った。

**調査方法** 保護地内の水路の10地点（図1 滝岡保護地区概況）にセルビンを設置し、1時間後に回収し魚類の採捕を行った。また、ミヤコタナゴの生息が観察されたため、観察舎前のたまり部分（図1 5）および水路下流部（図1 1の下流）で手網を用いて魚類の採捕を行った。採捕したミヤコタナゴの大型個体は麻酔をかけて全長と体重を測定したが、小型の個体は繁殖個体であるため魚体保護のため測定を行わなかった。

### 結 果

セルビンでは魚類の採捕はできなかった。観察舎前で手網で24尾、水路下流部で39尾、計63尾のミヤコタナゴを採捕した。（計測した18個体の平均体長 $36.4\text{mm} \pm 3.8$ 、平均体重 $1.1\text{g} \pm 0.4$ ）

### 考 察

昨年は繁殖個体しか確認できなかったが、今回は放流したと思われる個体も確認できたことから水路はミヤコタナゴが生息できる環境にあると考えられた。しかし、生息地内で確認される魚種が1年をとおしてミヤコタナゴ、ジュズカケハゼ、ドジョウの3種しか見られないことから、魚類生息環境としてはまだ完全とはいえないのであろう。また、ミヤコタナゴの繁殖に関しても二枚貝の生息状況が良くないため、昨年同様繁殖時期に水路に二枚貝を入れたカゴを設置していたこともあり、まだまだ改善の余地があるといえよう。

しかし、水路下流部は二枚貝が多く稚魚も多く確認できたことから、二枚貝の生息状況が改善されれば以前のようにミヤコタナゴも回復していくものと思われる。

また、今年は昨年同時期より小型の個体も確認できたことから、長期間にわたって繁殖していたと考えられた。水路に設置しておいた二枚貝を9月4日に回収したところ、1週間後に稚魚が4尾浮上したことから8月中旬に産卵していたと考えられ、遅い時期に産卵していたことの裏付けとなった。

（指導環境部）

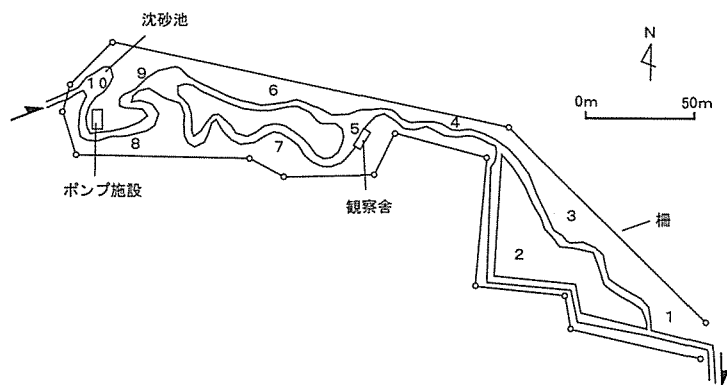


図1 大田原市滝岡ミヤコタナゴ保護地概要